

寄付金使途報告書（2025年度）

2025年度もたくさんのあたたかな ご寄付をありがとうございました。

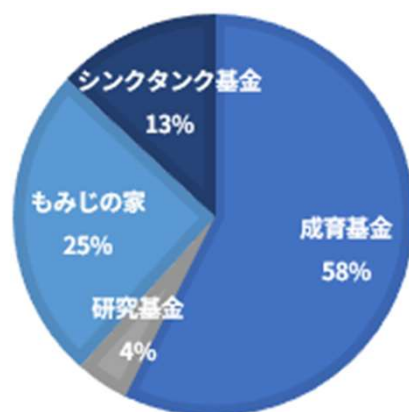
2025年度も当センターにあたたかなお気持ちをお寄せいただき、誠にありがとうございました。皆さまのご寄付は、先進医療や療養整備の充実など、その時点の状況や優先度を踏まえ、最も必要とされる用途に活用されています。

2025年度の活動報告を数字を現場からのレポートでお届けします。



2024年度に始動した「手術用ロボット寄付プロジェクト」にも多くのご支援を賜り、2025年9月には小児専門医療機関として全国で初めて手術用ロボット「ダビンチ」を導入いたしました。改めまして心より御礼申し上げます。

寄付の受入額



成育基金	2億2,462万円
研究基金	1,687万円
もみじの家基金	9,880万円
シンクタンク基金	5,119万円

ご寄付・協賛に関しては、ホームページからお問合せください。

担当：国立成育医療研究センター ファンドレイジング室（03-3416-0181）





ホスピタル・ファシリティドッグ®・マサの運営費用

ホスピタル・ファシリティドッグ®は、病院で活動するために専門的に育成された犬のことです。ハンドラーと呼ばれる、犬をあつかう研修を受けた臨床経験のある看護師とともに、入院患者さんの治療や療養生活に関わります。

マサは、2021年7月から本格稼働し、2025年度は延べ1,850人以上もの患者さん（お子さんや、妊婦さん）とのふれあい、遊び、治療に介入しました。近年では、集中治療室の患者さんのもとへサポートに行くなど、活躍の幅もさらに広がっています。マサは、病気や治療に向き合うこどもたちだけでなく、こどもたちを支えるご家族や医療スタッフにとっても安心感や笑顔を引き出してくれる、かけがえのない存在となっています。

※運営には、犬およびハンドラーのトレーニング、犬の飼育管理費用（定期的な獣医師の検査と診察、ドッグトレーナーによるフォローアップ、他）ハンドラー人件費などで毎年約1,000万円の費用が必要となります。

寄付金使用額：995万円

現場からの声（ハンドラー）

みなさまからのご支援、ありがとうございます。こうして継続して、ファシリティドッグの活動を行えているのもみなさまのおかげです。

2026年度は2チーム体制となる予定で、これまで訪問することができなかったお子さまの元へも足を運ぶことができるよう、より計画的に活動を広げてまいります。これからもどうぞ応援よろしくお願いいたします。



ホスピタル・ファシリティドッグ®は、認定NPO法人シャイン・オン・キッズの商標登録です

季節の行事

当センターでは外に出ることができない入院患者さんに少しでも季節を感じてもらおうと、冬は病棟からも見える中庭でクリスマスイルミネーションを行ったり、おりがみでつくられたツリーを飾っています。おりがみツリーは「子どもが持つ力を社会にもっと知ってもらいたい」という気持ちから2012年に始まった企画で、今年はセンターに入院中の子どもや医療従事者などセンター内外からの協力を得て、約2万3,000枚のおりがみを使用した高さ約6mのクリスマスツリーが完成しました。入院患者さんや外来患者さん、お見舞いに来られたご家族だけではなく、医療従事者や地域の方々の心も温め、ひとときの癒しに繋がっています。

寄付金使用額：326万円



院内環境整備



電動リモートコントロールベッドの導入

電動リモートコントロールベッドを新たに50台導入しました。お子さん一人ひとりの状態に合わせて細やかな姿勢調整ができるため、日々の療養生活の快適性向上につながるとともに、ご家族やスタッフの介助負担の軽減にも役立っています。

寄付金使用額：370万円



教育研究支援



人材育成に必要な教育研究支援

医療、医療経営など幅広く職員の技能を高めることで、患者さんに対してより専門的できめ細やかな医療を提供することを目的として、研修費用・資格更新費用などに使わせていただきました。

寄付金使用額：271万円

現場からの声（看護部）

このたびは心温まるご寄付を賜り、誠にありがとうございました。看護師の人材育成に活用させて頂き、特定行為研修の受講を通じて高度な医療行為を担う看護師が着実に増え、より専門性の高い看護の提供と医療の質の向上に大きく寄与しております。引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



先進的医療支援



UP To Dateライセンス契約

医師や研究者が利用する"UpToDate"は、日常の診療で生じる疑問にすばやく答えることを目的として、医師が医師のために制作した臨床支援ツールです。多くの専門医が執筆を担当し、エビデンスに基づいて作成された信頼性の高い臨床情報源を集約していて、特にレジデントなどが医療の研さんを積む際に大きく役立っています。

寄付金使用額：800万円